

「令和 6 年度 J-PEAKS 連携研究プラットフォーム事業」の審査における総評

令和 7 年 3 月 13 日

連携研究プラットフォーム審査委員会

「令和 6 年度 J-PEAKS 連携研究プラットフォーム事業」において、計 60 件（総数 405 名の教員等が参加）の、今後の北海道大学の研究力を支える魅力的な提案が申請されたこと、及び、インキュベーションステージの提案に対して、全学の教員から 236 件もの投票コメントをいただき、審査にあたって有用な参考情報となったことに対して、本委員会より心から敬意を表すとともに、感謝申し上げます。

申請があった、いずれの提案においても、社会課題の解決や新たな学問領域の創出を目指した、チャレンジングかつユニークなアプローチによる融合研究・応用研究を確認することができ、本学の研究の多様性や研究者層の厚みを強く感じました。

本委員会では、優れた融合研究や応用研究等をなるべく多く採択し、この流れを全学で促進したいという思いから、1 件あたりの支援額を抑えつつ、当初予定していた件数の二倍の提案を採択することにしました。

採択された提案は、総合的に勘案して、特に以下の点が高く評価されました。

（１）アクセラレーションステージ

- ・ 研究拠点の将来像が明確であり、研究拠点の形成に向けて、アクセラレーションステージの支援期間において取り組む内容に具体性があり、グランドチャレンジステージに向けた展望を明確に描けていたこと、また、その実現性が高いこと
- ・ 研究拠点の構想は、全学の多くの教員を巻き込むことができる可能性を有するほか、当該拠点から新たな融合研究・応用研究等に係る研究シーズや研究拠点が生まれてくる素養を備えること
- ・ 大型の研究拠点形成支援事業を獲得することを念頭においた場合、研究

代表者が、当該研究拠点を先導する資質や、拠点実現に向けた熱意や実行力、組織マネジメント能力を十分に有していること

- ・ 研究代表者のみならず、研究ユニットの構成員や、関連する学内研究者が、提案に関連して行われる卓越した研究を基に、被引用論文数の向上や外部資金の獲得増加を実現できる可能性を十分に有すること
- ・ 本学が将来的に注力していくテーマとして、本学の強みや特色、これまでの実績等を勘案して、学内外に十分に説明できる提案であること

(2) インキュベーションステージ

- ・ 将来性があり、かつ成功した場合の社会的インパクトが大きく、部局を超えた若手研究者による野心的な異分野融合に係る研究提案であること
- ・ 本学の強みや特色を生かして、今後、本学らしい比較優位を創造していくことが期待できる提案であること
- ・ 研究代表者が、独自性があり学術的にも評価されている研究を行っていること。また、他の研究ユニットとの協力により、新たな研究領域の創出や社会課題の解決に向けて、発展が期待できる取組実績を有しているほか、本提案において、納得感がある研究体制を構築していること
- ・ 提案において、アクセラレーションステージやグラントチャレンジステージへの昇格を通じて、研究拠点化を進めていく道筋が明確に描かれていること
- ・ 研究代表者等の業績から、引き続き Top10%論文の創出や、研究成果の社会実装を通じた共同研究費やライセンス収入の増額などに貢献される可能性が高いこと

採択された提案に対しては、10～20年後の世界や地域の課題解決、新たな学術領域の創出につながり、本学の次のブランドとなる融合研究・応用研究に係る研究拠点へ発展していくことを期待します。

また、本事業の原資となる、文部科学省及び日本学術振興会による J-PEAKS 事業では、強みや特色ある研究を核として、全学の研究力の向上を図ることが事業趣旨として設けられております。そこで、採択された提案においては、次のことが実施されることを希望します。

- ・ 研究代表者のリーダーシップの下、関連する外部資金も活用しながら、

研究ユニットの各メンバー、総合イノベーション創発機構や関係する研究支援組織との連携・協力により、研究計画及び個々の研究テーマの特色を生かした研究拠点の基盤作りを着実に進めていくこと

- ・ 本学の研究者等との更なる連携や、将来の研究拠点を支える候補となりうる博士学生等の巻き込みを通じて、持続的・安定的な研究拠点化を進めていくこと
- ・ 採択された研究ユニットは、研究力強化に効果を発揮した良好な取組やノウハウを積極的に学内に向け公開し、全学の研究力橋上を牽引していくこと

採択された提案は、いずれも挑戦的な取組が多いが故に、今後の研究拠点化に向けては、様々な困難を乗り越える必要があると考えられます。そこで、本事業では、研究費の助成に加えて、総合イノベーション創発機構をはじめ、学内の様々な研究支援組織、所属部局等が一体となって、各研究ユニットのニーズや状況に応じて、総合的かつアジャイルな支援の実施に取り組みます。既存の支援策に限らず、有効と考えられる支援策を積極的に試行していくとともに、そこで得られた有効な取組の全学展開を図ることで、本学全体の研究力の向上を進め、10～20年後の世界や地域の課題解決、新たな学術領域の創出に貢献する成果を1つでも多く創出できるよう努めてまいります。

また、残念ながら不採択となった提案は、今回の審査では、採択件数に限りがあることから選定しないものと判断しましたが、部局や研究領域を超えた新たな融合研究・応用研究等が検討され、魅力的な提案としてまとめられていたことを大いに評価しております。そこで、本委員会としては、不採択となった提案に対しても支援策を検討し、積極的に対応していくことにしました。例えば、採択・不採択課題ともに、産学・地域協働推進機構（産学連携推進本部、スタートアップ創出本部）のマネージャーや URA 等が、申請書の内容に基づいて研究ヒアリングや発明相談のために研究室を訪問する可能性があることをご承知おきください。

引き続き、J-PEAKS 事業を通じた本学の研究力向上に向けた取組にご協力いただければ幸いです。